

平成 25 年 3 月 14 日

サイエンス・ダイアログ 実施報告書

1. 学校名・担当者氏名: 高田学苑 高田高等学校
2. 講師氏名: Philip Geoffrey Young
3. 同行者氏名: 廣瀬敬治
4. 実施日時: 平成 25 年 3 月 12 日 (火) 13 : 30 ~ 15 : 00
5. 参加生徒: 1 年生 36 人、 2 年生 11 人、 3 年生 0 人 (合計 47 人)
備考: (例: 理数科の生徒) II 類数理コースの生徒及び6年制の生徒
6. 講演題目: (英文) An Introduction to Australia and to a Research Career in Chemistry
(和文) オーストラリア及び化学研究者の紹介
7. 講演概要: 講師の母国であるオーストラリアの自然(グレートバリアリーフ、エアーズロック、コアラ等の固有動物)や出身大学であるシドニー大学と研究室の紹介。講師の経歴。大阪大学とシドニー大学の相違。英語は国際的な共通語であり、研究成果を論文を英語で発表することはもちろん、世界的に知られた雑誌に掲載されることが肝要で、フラレンの発見に関する、日本の研究者の失敗例を提示した。充実した本国や日本での研究生活や専攻分野としているロタキサンとよばれる化合物を紹介した。
8. 使用言語: 英語
9. 講演形式:
 - (1) 講演時間 65 分 質疑応答時間 25 分
 - (2) 講演方法 (例: プロジェクター使用による講演、実験・実習の有無など)
プロジェクター使用による講演
 - (3) 通訳 (例: 同行者によるサポート、外国人研究者本人による日本語説明)
国際言語としての英語の有用性や専門分野について詳しく補足説明をしていただいた。
 - (4) 事前学習時使用教材(事前学習を行った場合のみ)
10. 学校からの支給経費(該当がある場合): 交通費 宿泊費 謝金
11. その他特筆すべき事項:

講演終了後、4名の生徒が約20分間、講師及び同行者の廣瀬先生を囲んで、お互いに英語で質疑応答を行うことができたことは、生徒達の今後のキャリアに繋がっていただろうと思いました。先生方には生徒達に真摯にご対応いただき大変感謝しております。